
国歌斉唱～ワラビーズVSフランス

Australians all let us rejoice For we are young and free
We've golden soil and wealth of toil Our home is girt by sea
Our land abounds in Nature's gift Of beauty rich and rare
In history's page, let every stage Advance Australia fair!
In joyful strains then let us sing "Advance Australia fair!"



今年の目標は、高らかにオーストラリア国歌を現地の皆さんと一緒に斉唱する事と心に決めたので、CD聴いて歌詞覚えて、当日に備えていたのですが、「チケットが手に入らない！」という最悪の状態に陥りました。今まで海外でラグビー観戦する際は、チケットをインターネットで購入してきたのですが、「オーストラリアに住所・住居を持つ人限定」という販売条件が付いていて、海外から来て観戦する人は宿泊込みのツアーに申込み下さい・・・などと無理難題を押し付けてきました。宿泊するホテルの住所を使って申し込んでも、メールのアカウントか、支払方法のクレジットカードのデータか原因はわかりませんが、日本からチケットが買えません。翌日のAFLのチケットは簡単に手に入ったのに、人種差別かアパルトヘイト～なんて抗議もできず、シドニー到着。到着して最初に、日本で言う「ぴあチケットセンター」を探してなんとかチケットを購入しました。

苦労して手に入れたチケットを持って、いざアリアンズ・スタジアム(元のオーグースタジアム)でワラビーズ(オーストラリア代表)対フランス代表のテストマッチ観戦に向かいます。

当日は、ダーリングハーバーの裏手方向にあるフィッシュマートで、ロックオイスターとロブスターを食べて、XXXX(フォーエックス)ビールで乾杯。当然、試合会場に隣接する旧フォックススタジオにあるパブは、ワラビーズサポーターのお祭り広場になっています。ビール片手にラグビーを語るという風景、最高ですね。日本で言うなら、スーパードライ片手に、阪神タイガース応援という甲子園球場みたいなものです。



入場すれば、応援グッズとして、フランスに対抗するか、ワラビーズカラーのゴールドイエローのベレー帽を観客全員にプレゼント。ベレー帽かぶって、生ビール買って、両チームの練習風景を眺めます。



ワラビーズ、注目は、今日が初キャップのワラタスの用心棒、203cm、140kgのロック、ウィル・スケルトンのぶちかまし。AFLから転向してきた章駄天フルバックのイズラエル・フォロウの走りが爆発するか。現状のIRBランキング通り、フランスをノックアウトできるのか？

対するフランスは、抜群のキャプテンシーで、チームを引っ張るティエリ・デュソールに注目です。2011年のワールドカップで、最後までオールブラックスを苦しめて、惜しくも準優勝に終わったチームが底力を発揮するのか？マルソー！マルソー！



スタジアムは、ベレー帽にジャージ、ワラビーズカラーのゴールデンイエローが占拠。ピッチには両チームの選手が入場、選手が並んでセレモニー開始です。場内起立から、まずは、勇ましいフランス国歌斉唱、続いて待ちに待ったこの瞬間です。オーストラリア国歌斉唱。高らかに、現地の皆さんといざ歌わん！本番に弱い私ですが、無事、高らかに「あどば～んす、オーストラリア、ふえあ～あ！」と最後まで間違える事無く歌い終えて、目標達成。カンゲキです。





キックオフ。最初のトライは、注目のスケルトン。前評判通り、やる時はやるビッグな男の子です。後半途中で控え選手に交代しましたが、攻撃の起点となり、守備の要となって相手攻撃をぶちこわす門番役をつとめあげました。けど、交代して出てくるのが前キャプテンのホーウィルですから相手も大変です。また、フォラウも走りぬけて、手を上げて笑顔でトライ。新キャプテンのマイケル・フーパーのトライも合わせて、39対13で、ワラビーズの勝利でノーサイドとなりました。



フランスは集中力を欠くハンドリングエラーなどで見せ場らしきシーンはありません。男前のハーフ陣が、相手チームを翻弄する本来の姿を見られなくて残念です。ただ、違う意味でのオトコマエ、センターのマシュー・バストラウドが気に入りました。これぞセンターという当たりの強さが魅力的です。
(以上、2014年6月21日：アリアンズスタジアム)

目標達成の翌日は、オリンピックパークのスポットレス・スタジアムでAFL(オーストラリアン・フットボール・リーグ)の観戦です。競技スペースは楕円形のオバール。ボールは、ユニオンラグビーのボ

ールより小さめの楕円球で、選手は18名。30分クォーターで2時間オバールを走り回ります。



ゴールポストは4本で中央の長い2本の間ボールを蹴り込んだら6点、端の短いポールと長いポールの間蹴り込んだら1点、というポイントで決着します。キックパスを主体にして、ノーバウンドで受ければ、その位置からフリーキック、パスはボールを持って、もう一方の手で、打ち出します。ボールを持って5歩以上進む時は、バスケット風のドリブルでバウンドさせます。



タックルあり、オブストラクションも危険な行為以外はオッケーでボールがタッチライン(曲線ですが)を割ったら、タッチジャッジが後ろ向きで放り込みます。ゴールが決まれば、ゴールジャッジ(ボールの通過を見極める審判が居ます)が、ダンディー坂野の決めポーズ「ゲッツ！」で判定、ポールに備え付けの旗を逆サイドのゴールジャッジと合わせて振り回します。



細かいルールはわかりませんが、以上の知識さえあれば、スピーディーで何でもありのフットボールを楽しく観戦する事ができます。結果として、ホームチームのGWSジャイアンツが、カールトン相手に100対92で勝利しました。勝利の決め手は、「ゲッツ」の回数が多かったから・・・でしょうか？
(以上、2014年6月22日: スポットレス・スタジアム)



ユニオンラグビーにリーグラグビー、AFLとオーストラリアはフットボールが盛んで、ナマで観戦すると面白味がわかります。

ワールドワイドに考えると、サッカーの世界カップが開催されているこの時期に、ブラジルじゃなくてオーストラリアでラグビー観戦なんてクレージーかも知れませんが、犯罪率も低くノホホンとしているオーストラリアが好きで、ラグビーが大好きですからね。



さて、いよいよ2015年はイギリスでラグビー・ワールドカップ開催です。時間と先立つもの、周辺とも相談しなきゃなりませんが、イギリスのスタジアムで日本代表を応援できるのでしょうか。

2014年6月29日記(旅は6月18日～25日)

Top
[トップ](#)
[↑](#)

Back
[戻る](#)



[2015 ラグビーワールドカップ～イングランド \(前編\)](#)